

新たな不登校が生じない取組（「未然防止」の取組）

不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

【取組1】（A 中学校）

不登校生徒の登校時に付き添い、職員室の学年の教員への挨拶を支援している。また、生徒主体で行う小集団活動（レクリエーションや体育館での活動）を実施したり、文化発表会実行委員として取り組んだ生徒に対して、担任及び校内別室指導支援員が連携しながら支援したりした。さらに、学校行事や授業に参加するために、生徒、担任及び校内別室指導支援員で最適な参加方法を検討した。その結果、学校行事や授業の見学場所を配慮し、付き添い等のサポートを行うことで不登校生徒が様々な活動に参加しやすい環境を設定した。

【取組2】（A 中学校）

図書室で、本の紹介やプレゼン等の小集団活動を生徒主体で実施した。また、給食の時間に、学級の生徒との触れ合いの機会を設定した。生徒が教室に給食を取りに行く時に同行し、クラスの生徒たちも声を掛け続けたことにより、給食から昼休みまで教室で過ごせるようになった。さらに、生徒の将来やりたい仕事について話す機会も設定した。

【取組3】（B 中学校）

音楽及び保健体育の授業におけるグループ活動が苦手な生徒への支援をした。また、合唱練習に入れたい生徒が参加できるように、学級の生徒と共に声掛けをした。技術の授業では、図の処理の仕方に質問がある生徒への対応をしたり、作業の片付けの支援をしたりした。

【取組4】（C 中学校）

校内別室指導支援員対象の校内研修を4月、7月、9月に計3回実施した。

第1回（4月）には、「不登校対応の基本方針」、「支援方法及び校内別室の利用ルール」、「生徒理解」、「環境整備」について、第2回（7月）には、「教育支援センターを視察及び関係機関との連携」について、第3回（9月）には、「不登校生徒の特性についての基本的理解と具体的支援」について取り扱うとともに、9月以降の支援の方向性を支援員間で共有し、一貫性のある対応を確認した。



多様な学びの場を確保する取組

（「早期支援」及び「長期化への対応」の取組）の推進

支援会議（D中学校）

毎週火曜日に実施し、生徒の指導・支援方法やつながっている関係機関を共有した。また、生徒の成長した点を共有し、更なる成長のための支援方法について検討した。

アウトリーチによる支援（C中学校）

SSW と連携し、定期的に SSW が保護者、生徒と登校し、担任と面談を行う機会を設定した。面談が習慣化することにより、週1回登校し、担任と授業の内容を確認するとともに、生徒本人のペースで課題に取り組むことができるようになった。

校内別室における支援（C中学校）

校内別室をパーテーションで区切り、個別の空間とコミュニケーションを取りやすい空間を区別して設置した。また、生徒との共同作業で掲示物を製作するなどの環境整備を行った。さらに、授業や学校行事の参加について、生徒と担任、支援員で話し合い、最適な参加方法を検討した。学習内容についても、学習プリント、掲示物製作、塗り絵など、生徒が選択できるように整備した。



デジタル機器を活用した支援（A中学校）

実技教科のオンライン授業が受けられるように調整した。その結果、午前中3～4時間のオンライン授業に取り組む生徒が増えた。



関係機関との連携（C中学校）

定期的に SC、SSW、心の教室相談員が校内別室を訪問し、情報を共有した。その結果、校内別室の利用を検討している生徒と保護者の見学につながった。

成果

個に応じた支援及び環境整備により、登校時間が増加し、授業に出席できる時間と回数も増加した。

また、オンライン授業を継続して受けられなかった生徒が、週5日、1日3時間のオンライン授業に出席できるようになった。

課題

集中が続かず、学習になかなか取り組めない生徒への声掛けの方法や、教材の工夫等、学習支援の充実、関係機関との連携の強化及び生徒一人一人の状況に応じた支援体制の充実が必要である。